

会 議 記 録

会議名称	令和 7 年度第 2 回 杉並区立図書館協議会
日 時	令和 7 年 10 月 4 日（土）午後 2 時 01 分～午後 3 時 30 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 多目的ホール
出席者	<p>委員 鈴木、伊藤、滝田、荻上、澤村、増田、日向、松林、児玉、岡村、門間 区側</p> <p>中央図書館長、管理係長、企画運営係長、施設整備担当係長、 資料相談係長、事業係長、管理係主査、企画運営係主査、 資料相談係主査、柿木図書館長、西荻図書館長、永福図書館長、 高円寺図書館長、宮前図書館長、成田図書館長、阿佐谷図書館長、 南荻窪図書館長、下井草図書館長、高井戸図書館長、方南図書館長、 今川図書館長、中央図書館業務委託責任者</p>
配付資料	<p>・次第</p> <p>資料 1 令和 6 年度 図書館別実績数値</p> <p>資料 2 図書館評価表</p> <p>資料 3 令和 7 年度 利用者満足度調査結果</p> <p>資料 4 サービス評価 スケジュール案</p> <p>資料 5 杉並区立図書館サービスの評価表</p> <p>資料 6 デジタルアーカイブ トップ画面イメージ</p> <p>資料 7 デジタルアーカイブ 事業スケジュール</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 令和 7 年度杉並区立図書館サービス評価について</p> <p>(2) 杉並区デジタルアーカイブ事業について</p> <p>(3) 今後の日程</p> <p>(4) その他</p> <p>3 閉会</p>

○会長 それでは、定刻となりましたので、令和7年度第2回杉並区立図書館協議会を開催いたしたいと思います。

まず最初に、中央図書館長からご挨拶をお願いいたします。

○中央図書館長 はい。皆さん、お久しぶりでございます。本日、天候が悪くなりそうなお越しいただきまして、お世話になります。ありがとうございます。

今年の夏も暑くて、やっと涼しくなりかけてきていますが、おかげさまでコロナも大分下火になってきたということで、各館ともそれぞれいろんな催物とかが順調に活発に行われてきていて、うれしい限りでございます。また、今回、今日は評価についてのことがメインになるかと思いますが、活発なご議論を頂ければと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

本日の委員のほうの出欠席を確認します。今回、2名の委員から欠席のご連絡を頂いております。規則上は委員の半数以上の定足数を満たしており、本会議は成立していますので、このまま進めていきたいと思います。

では、まず議事に入る前に、毎回のお願いになりますが、議事進行に関わるお願いをさせていただきます。議事進行に当たり、円滑に進行できますよう、皆様のご協力をお願いいたします。また、できるだけ多くの委員が発言の機会を持ちたいと思いますので、ぜひ、時間のご配慮を頂ければと思います。

本日の資料をお手元に配付しております。時間の関係上、非常にたくさんの資料になっておりますので、資料の確認は省略させていただきますので、議題の際に、右肩にあります資料番号をお示ししますのでご確認ください。もし資料が見つからないとかありましたら、事務局のほうにお声がけいただければと思います。

それでは、早速、議題に入りたいと思います。本日は議題を4件、その他を抜いて3件用意しておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、議題(1)令和7年度杉並区立図書館のサービス評価について、事務局より説明のほうをよろしくお願いいたします。

○企画運営係長 はい。企画運営係長です。よろしくお願いいたします。

では、お配りしました資料を順に説明させていただきます。

まず、資料1、杉並区立図書館の実績数値です。事前にメールでお送りさせていただいてはいるのですが、一部、数字の抜けているところがございましたので、今回これを入れ

たものをお配りしております。一応、これは完成ということになります。

続きまして、資料2の図書館評価表。項目別自己評価表ですね。これはメールでお送りしているもの、そのままでございます。

続きまして、資料3になります。右上に番号がなくて申し訳ないのですが、A3の横の、少し厚みのある資料なのですけれども、メールでお送りさせていただいておりましたのが、すみません、間に合わなくて、館別にまとめたものをメールでお送りしています。例年、評価項目別にまとめた資料とかをお配りしておりますので、今回、評価項目別の資料も併せてつけておりますので、資料2の図書館評価表は2種類を配付させていただいております。

続きまして、資料3になります。利用者満足度調査結果ということで、利用者さんにアンケートをお配りした結果をまとめたものです。資料3は幾つかございまして、まず資料3-1ですね。あ、失礼しました。すみません、ちょっと戻っちゃって、申し訳ないです。

A3のこの図書館評価表、資料2なのですけれども、お配りしたものの、高円寺図書館の分で埋まっていないところがありまして、今回、そこを埋めたところもあるのですけれども、まだ一部、7年度の目標とかが入っていないのですが、こちらのほうは、また内容が埋まりましたら配付させていただきますので、ご了承ください。申し訳ないです。

すみません。戻りまして、資料3、満足度調査の資料についてです。資料3-1、これは項目別の回答割合ということで、満足度の高い数字を、昨年、前回と比較したものの資料です。これは、メールでお送りした、そのままになります。

それから、資料3-2、こちらのほうはA3の横の大きいやつですね、細かい数字がいっぱい並んでいる表ですけれども、これもメールでお送りしているもの、そのものになります。

それから、そのA3の後ろのほうにまた、A4でちっちゃくなった資料、資料3-3と資料3-4、この二つが今回追加で配付させていただいております。こちらは、アンケートの自由意見、自由に筆記して書いていただくところの集計になります。各質問項目ごとの自由意見欄のほうは3-4で、全体の自由意見欄は、主な自由意見は3-3のほうの資料になります。今回、この3と4を追加させていただいております。

では、続きまして、資料4です。こちらは今回行っていただくサービス評価のスケジュール案ということで、ご確認ください。こちらの中身なのですが、流れ的には、あと時期的には、去年、昨年度と同じぐらいのイメージで考えております。

まず、10月中旬から評価のほうをお願いして、11月中旬ぐらいに、一旦、委員の皆様の評価結果を取りまとめたいと思います。その後、11月中旬、まとめた後に、またこちら

のほうから委員の皆様に、出た意見とかをお戻しして、それをご確認いただいてから12月13日の評価部会で、図書館部会の方向性とか、そういったものをご確認いただくという流れを予定しております。日付についてはこれからまた詰めたいと思いますので、今後のご案内の中で日付とかを確認いただければと思います。

この評価に当たりまして、今お配りした資料、細かい資料とかいろいろございますが、こちらを見て評価していただくわけですが、図書館側の評価につきましても、今回、まだ間に合わずお渡しできないのですが、図書館側ではこういう評価をしましたというような資料を参考資料として追ってまたお配りしたいと思いますので、その辺を図書館の視点とかをご確認いただいて、評価に役立てていただければと思います。

評価部会は12月13日を予定しておりまして、その後、評価部会の評価案を整えていただいた後、1月24日の図書館協議会で確認して承認していただく予定です。

それから、資料5、こちらは書式なのですが、評価いただいた結果をこういった表に埋めていただいて、事務局のほうに返送いただければと思っております。こちらのほうはまたメールで、データでお送りいたしますので、中を記入していただいてお送りいただくようなことをお願いしたいと思います。

配付資料につきましては、事務局のほうからの説明は以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。ちょっとたくさんの資料になりますし、事前に皆様にはメールで資料については、大部分の資料は送らせていただいておりますので、まず、こちらの資料の内容などについてご質問などございましたら、よろしくお願いします。

○委員 よろしいですか。

○会長 どうぞ。はい。そのまま話していただければと。

○委員 ありがとうございます。

この資料1はすごく数字がたくさんあって、私もふだん、宮前図書館を15日ごとに利用させていただいて、とても杉並区は、図書館状態といたらいいんでしょうか、いいんじゃないかなと思っていますけど、この数字から見て、客観的な評価がなかなか、ほかの区の数字がないので分かりませんが、私ども区民から見たときに杉並区の図書館の状態というのは、例えば一番上にありますのは蔵書の数になっていますけど、図書館の数なんかは、人口の割に、広さの割に多いと聞いていますけど、一応、図書館としては非常にいい状態に杉並区はあるというふうに認識してよろしいんでしょうかというのが1点目にありまして。

それからあと、ちょっと数字を見まして、私もよく理解していないところがありますけど、例えばこの資料1の一番最初に蔵書があって、その四つ下に区民1人当たりの蔵書の数というのがあって、それが3点、ちょっとちっちゃくて、よく見えない。3.58となっていますけども、その下に、個人貸出冊数というんですか、これが三百八十何万ということで、「区民1人あたりの貸出数」というのは6.幾つということで、要するに蔵書の数よりも、私ども利用する区民が借りる本の数のほうがうんと多いという理解でよろしいんでしょうかね。ちょっとここが、数字をちょっと、ぱっと見て、最初にちょっと私も疑問に思ったんで、よろしくお願いします。

以上です。

○会長 蔵書の質問。蔵書が多いということでもいいんですよ。

○資料相談係長 資料相談係長です。

まず蔵書ですけれども、蔵書の数、実は23区中、一番多い、あるいは世田谷区さんがかなり多いので、1番か2番ということになります。

○委員 多いと。

○資料相談係長 1人あたりの貸出数についても、今、ここに示されているとおり、蔵書の数と比べて、1人当たりはそれだけの数を借りているという数字になると思います。

○委員 ああ。いや、だから、蔵書の数よりも借りる数のほうが、約、倍に近いようなという、そういう実態でよろしいんでしょうかね。

ちょっと、何か私は、蔵書が200万もあるのと、借りるのもそんなに、いや、1人が15日ごとに借りれますから、それから同じ本も何人も借りますから確かに増える可能性は数式的にはあるんですけど、そういう理解でいいのかどうか。

○資料相談係長 そういうことですね。

○委員 そういいますか。

○資料相談係長 お一人が同じ本を何回も借りることもあります。

○委員 数字はうそをつかないと。

○資料相談係長 ええ。15冊借りることができるのです。

○委員 ええ、はい、15冊ね。

○資料相談係長 たくさん、1人が借りるわけです。なので、それをトータルすると、その数になってくるといことになります。

○委員 ということは、数字から言うと、結構回転率は、数字だけで見れば、回転率はいい

いと。全然借りない本もあるでしょうけど、そういう理解で、数字の上からだけだと、理解してよろしいんでしょうかね。

○資料相談係長 そのとおりだと思います。

○委員 はい、分かりました。ありがとうございました。

○会長 はい。まあ、基本的に、蔵書の冊数というのは、区民1人当たりが多いということとは、例えばたまにしか使われないんだけどそこにしかない本というのがある。

○委員 ありますよね。

○会長 例えば蔵書冊数が少ない図書館だと、探しに行ったんだけど、ないという可能性が高まるわけなんですね。杉並区は、ある程度古い資料も取ってあるし、非常に幅広い資料を取ってあるという意味での評価としては高いという形。で、貸出冊数のほうは、図書館に来て、本を利用する人が多いという……

○委員 借りるということ。

○会長 ちょっと、考え方としては、評価の視点としてはちょっと違うものなんですけど、どちらもやはり非常に高い。ほかの市町村や区とかに比べても高いということですね。そういう評価で、つまり図書館活動の活発さと、蔵書の、備えておく、区民のニーズに備えるところが非常に厚いというふうに評価できるかな、なんていうことはと思いますが。はい。ぜひそういう感じで——非常に恵まれて、羨ましいと思う。他の地方に比べたらもう人口1人当たりとか、あと面積当たりとか、行くのにすごく遠かったり、そういう意味でも非常に恵まれているんじゃないかな、なんていうことは個人的には思います。

○委員 はい。

○会長 はい。また、そういう数値を見て、あと、ぜひ委員の皆様は実際に図書館を使っている側。この数値に表れた部分と、自分とか周りの方々が使ってみての実感とをちょっとすり合わせてもらって、ぜひご評価いただけると、この協議会委員としての評価としてはいいものになっていくかなと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

ほかにございますでしょうか。どうぞ。

○委員 すみません。今年初めて入ったので、ちょっと確認なんですけども。

この評価というのは、資料5のこのシートを各委員が作成するということですよ。

○会長 はい。

○委員 それは、この冒頭にもある数値を見ながら評価をするということでしょうか。

○会長 こちらについて、事務局のほうから何か説明がありますか。大丈夫ですか。

○企画運営係長 はい。そうですね、最終的にこういう形でまとめますのは、去年の評価のところを見ていただきたいところなんですけれども、それについての各委員さんのご意見とか考えたところとか、そういったところをそこに書いていただいて、その結果、集約して冊子にまとめるというところになります。

ポイントが、そのお示しした書式それぞれの項目、これを視点に評価していただくということになるんですけれども、この出来上がりのイメージは昨年度の資料とかである程度ご確認いただくと、もしかしたらイメージがつくかもしれないんですけれども。

○副会長 委員は今年度からなので、報告書って、前回のときに……

○企画運営係長 はい。まだ、ご覧になっていないんですかね。

○副会長 はい。多分もらっていらっしゃらないと思うんで、渡していただけますか。

○企画運営係長 はい、そうですね。

○副会長 協議会の評価というのが4ページぐらいですかね、ここで出た意見をまとめて文章化して、協議会からこういうふうに図書館に提言しますというか、評価しますという文書を出すんですけども、その基として作っていただくもので、文章で評価していただくのではなくて、この資料と、後から送られてくる、図書館が自己評価というかをした、こういう数字をこういうふうに図書館としては解釈しますというようなものを材料として頂けるので、それをご覧になって、協議会としてそれをどう評価するかというふうに、この数値と、それから図書館の評価というのを併せて、それで協議会が評価するという形になります。

○委員 図書館の評価というのは、自己評価ですか。

○副会長 そうです。

○委員 そうすると、ここに今渡されているA3の資料が、どういう形か知らないですけど、まとまってきて……

○副会長 はい、ある程度まとまって図書館が、はい、という……

○委員 それを、それに対して、数値と併せて評価をするということですか。

○副会長 はい。

○委員 その評価は、文章評価なんですか。それとも、何か項目をチェックする……

○副会長 項目チェックではなくて、箇条書みたいな形で……

○委員 一つ一つの項目に対して箇条書。

○副会長 はい。評価の意見を入れていただいて、それをここで、部会で取りまとめて一つの意見にするという……

○委員 分かりました。

それで、もう一個、すみません。ちょっとその流れで確認させていただきたいんですけど、これ、今、資料5だっけ、何か見ると、シートが1枚しかないんですけども、中央館とか分館——分館と言っていいのか、すみません、分からないけど——幾つかある図書館の一つ一つの評価じゃなくて、全体の評価ということでよろしいですか。

○副会長 はい、全体です。

○委員 例えば、ちょっと、ここは落ちているけども、こっちは上がっているとかということもあったりする、図書館としてもあると思うんですけど、それを踏まえて全体的にはうまくいっているとか、そういったような捉え方でよろしいですかね。

○副会長 はい。そう理解しています。

○委員 はい、分かりました。すみません。ありがとうございます。

○会長 どうぞ。

○中央図書館長 すみません。補足というか、おさらいになります。

今、先に成果物として、去年のものがあって、これは前回の協議会のときにお渡しはしているかと思うんですが……

○副会長 すみません。

○中央図書館長 その中で、先ほど副会長がおっしゃったような形で、まとまっているものになっております。その前段階として、今申し上げたA4の資料5のこの紙なんですけども、これで、主に今言った数値などを見て分析してご意見とかご感想を頂くのは、この上の総括的な評価、2番のところが主になろうかと思います。そして、3番のところは、各評価項目、先ほど申し上げたように、各館ごとをまとめたのがA3で1表ずつあるんですけども、それを全体的に見て、多様な、例えば(1)番の多様な資料の収集と提供については、私はこう思うとか、こういうところがどうなんだろうかというようなご意見を頂くということになります。それを後でまとめていくというスタイルになっているところでございます。

以上です。

○会長 はい。基本的には全体として評価していただいて、今おっしゃったような個別の図書館でちょっと指摘したいことがあれば、その意見の中に、「〇〇図書館についてはこ

ういうところに頑張ってもらいたい」とか、そういうことはつけていただいても構いませんので、基本的には全体をどう、まあ、図書館はこう考えているけど協議委員としてはこう見ますとか、図書館の評価で妥当だと思いますとか、そういう評価を頂ければと思います。図書館のほうからは、原案というか、図書館ではこう捉えていますというところが後で頂けるということをお聞きしております。はい。

そうじゃないと、数値が、先ほど、高いか低いとかは、やはり研究者でないとなかなか分からないですし、杉並区としてどう受け止めているかというところをまず示していただかないと、そこはちょっと難しいかなと思っていますので、よろしくお願いします。

（事務局員より委員に昨年度の図書館評価報告書を配付）

○会長 今、資料の、前回おまとめした資料ということになります。大丈夫でしょうか。

ほかに何かございますでしょうか。どうぞ。

○委員 はい。よろしくお願いします。

資料1の実績の中で、ちょっと気になった点で質問なんですけど、ボランティア事業、協働事業ですね、実施回数が前年度比195.6%と、すごく増えているなと思って中を見ると、西荻図書館、驚異的な数字をたたき出しているなと思ったので、この点は、具体的に何が、どういう事業、どういう活動が増えているというのがあったら、ちょっと教えていただきたいなと思いました。

○中央図書館長 じゃあ、すみません。今、あかちゃんおはなし会とかそういうのが、実際はやっていただけけれども、5年度はそれがあまり統計上の結果が出てこなくて、実際にちゃんと測ったらこれだけの数になったということで、実はそういうことで、載せるべき数が載っていなかったからというんで、大幅に見えているというところもあるみたいです。

○委員 分かりました。

○会長 はい。大丈夫でしょうか。

委員、どうぞ。

○委員 今みたいになんて数字のことでなんですけれども、今、西荻図書館のお話が、回数が大幅に増えた内訳ということで、私もどんな取組をされたのかなと思うところだったんですが、同じように、この表の中の高井戸図書館ですとか、あとは、もう一つの今川図書館、なんですけど、「子ども読書活動の推進・地域との連携・利用者同士の交流推進」の中の「その他」のところ、すごく人数、関わっている方の人数が増えているんですね。

増加率は587、まあ5倍に増えているとか、最後のところでは6倍増えたりするんですけども、何か取組の工夫をされているんだと思うんです。でも、それが、「その他」の活動というふうになってしまうと、どんな活動をされているか見えないところがあるので、そんな努力を紹介していただけると、いろんな館がそれから学ぶことができるというか、できるのかなと思いましたので、今の同じように、ちょっと、解説があればお願いしたいと思っています。

○会長 何かご説明がありますでしょうか。

○高井戸図書館長 はい。高井戸図書館ですけど、今ご質問いただいたのが、子ども読書活動の推進のところの、事業参加者数のその他のところが、令和6年で587%という数字が出ているというところでのご質問ということで、よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○高井戸図書館長 高井戸図書館では、ここのカテゴリーで、これは全館共通のカテゴリーなんで、おはなし会ですとか映画会ですとか、一般事業という形になっているんですけども、そのカテゴリーに入らない活動ということで、この中に入れていきます。

具体的には、高井戸図書館で実施しています、布絵本の制作をしているんですけども、その布絵本のワークショップですとか、それからその布絵本を使った、ご家族、親子さんに対するイベントみたいなのを定期的に行っているということで、令和6年につきましてはこの数字になってございます。カテゴリーとしてどこに入れるかというのはちょっと、またご相談していかなきゃいけないところはあるかと思いますが、令和6年に関してはここに入れているということでございます。

○委員 同じように、今川図書館も同じ傾向で、その他のところが増えているんで。

○今川図書館長 参加者数なので、お子さんが何かにたくさん参加してくださったということで、3年分を見ると4年度が167人、5年度は下がって43人で、6年度が288人となっているので、ちょっと、ごめんなさい、記憶の中で確定したことを今申し上げるのは難しいんですが、例年のことを鑑みて答えると、参加型の何かお薦め本の紙を書いてくださったとか、何ていうんですかね、1日に200人が集まったということではなく、そういう、提出物とかそういうものが重なってこの人数に、4年度と6年度はなったのではないかなと思っております。

以上です。

○会長 数値で大きく変わった、例えば前年比で2倍以上に増えて200%を超えているよう

なものについては、なぜ——まあ我々としては好意的に、増えたわけですから好意的に評価したいので、どんなことがきっかけで増えたのかというのをちょっとお示しいただけると、評価の参考になるかなと思います。どうぞ。

○中央図書館長 補足になりますけれども、今川図書館のこのA3の紙の、今川が一番最後なんですけど、今川だけになっている、上から3番目、子ども読書活動推進のところで、6年度の取組結果としては、スタンプラリー、工作を毎年やっているんですけども、それ以外として、プログラミング講座とか謎解き、それから鑑賞会とかぬいぐるみおとまり会と、いろいろなイベントを1年間通じてやってきたという、そういうような参加数になるので、そういう、先ほど申し上げたような形で、コロナが大分下火になってきたということで、各館それぞれ、イベントを結構多くやっているんですね。それもやっぱり人気を博していて、逆に、何倍というような形の参加というか応募者数が多いというようなイベントが多くなってきていると。そういう成果の表れだと思っております。

○会長 どうぞ、委員。

○委員 勉強不足なことで申し訳ないんですけども、毎度この評価をするときに、用語がなかなか難しくてですね。例えば今回だと、相互協力貸出と団体貸出して何が違うんだろうとか、調べ学習資料の貸出というのがまたさらに出てきたとか、ブックトークって何だろうという、その辺の言葉の補足を毎度入れていただけると大変ありがたいところなんですけど、申し訳ございません、力不足。

○会長 この辺は、図書館のほうから、ほかにも何か、今出てきたのは相互協力、団体貸出、この違いですね。それと、調べ学習貸出というのは何かまた別な、違うのか。あとはブックトークですね。あと、レファレンスというのも毎回、何なんですか、みたいな、そういうサービスがあるんですよとしか言いようがないんですけど、レファレンスって何ですかというような、ちょっと用語の説明についてありますでしょうか。

○資料相談係長 資料相談係です。

後ほど、説明についてはそういった資料をつけてお示ししたいと思います。まず相互貸借、杉並区以外の他区の自治体から、また東京都から借り受けて、それを相互にやっており、杉並区所蔵がないものを借りて貸し出すというサービスになります。

団体貸出というのは、杉並区内の学校や、様々な施設、そういったところに図書館の本を貸し出して、その施設で借りていただくというのが団体貸出になります。

あとレファレンスについてですが、最近はレファレンスは図書館の大切な一つのサービ

スになると思いますけれども、図書館で図書館の資料を使って利用者の方が調べたいことを援助する、資料を紹介をしてその答えを導き出せるような形で援助するような、そういったサービスになります。

○会長 調べ学習。

○資料相談係長 調べ学習は、お願いします。

○事業係長 それでは、調べ学習の資料についてとブックトークについて、事業係長から説明をします。

調べ学習資料というのは、学校図書館のほうで足りない資料などを、学校司書さんなどを通じて、中央図書館に依頼があります。そのテーマに沿ったものを、職員で調べたもの、資料等々、貸出の分をまとめて学校宛てに貸し出しているというのが調べ学習です。

ブックトークにつきましては、これは各館、様々な工夫を凝らしてやっておりますが、小学校などに職員が出向いて、テーマに沿った本の紹介ですとか読み聞かせ等を行うのをブックトークといって、サービスを提供しているものになります。

○会長 はい。それぞれ、今のご説明でご理解いただけますか。大丈夫でしょうか。数値を見る際の参考にしていただけたらと思います。

どうぞ、委員。

○委員 今年度からこちらに入らせていただきました。

皆さん、もうご存じなのかもしれないんですけども、読書バリアフリーの推進のところの音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数というところで、この配信サービス、ナクソスというのは杉並区独自のものなのか、ちょっと私、存じ上げないもので、どのようなものか教えていただけたらありがたいです。

○資料相談係長 杉並区独自のものではないです。そういった会社がありまして、そちらと契約をして、インターネット上を使って音楽を聴くサービスになっていて、IDをその会社から受けて、利用者の方がそのIDを使ってパソコンで聴ける、そういったサービスになります。

他区でも利用しているところもありますので、音楽を聴く方のためのサービスということになります。

○会長 どうぞ。

○委員 すみません。それは利用者の方が直接ナクソスさんとやり取りするのではなく、そこに図書館が一旦絡んでというか入って、IDの発行とかをお手伝いしているという、そ

ういう形でいいのですか。

○資料相談係長 そういうことになります。

○委員 はい。ありがとうございます。

○会長 クラシックを中心にCDを作っている会社さんがナクソスさんという海外の会社さんがあって、そこがクラシックの名盤を何千枚も、そのIDがあれば結構聴き放題で聴けるということですね。それを、杉並区が間に入って、杉並区を通じてIDをもらうと自宅のパソコンとかで聴けるので、図書館に行かなくても音楽が聴けるというサービスとして、この読書バリアフリーというところに入っているという形に。本来だったら、図書館に行ってCDを借りて、自宅のCDプレーヤーとかで聴くというところを省略できるということですね。で、お金がなくても音楽が聴けるという、そういうサービスになっています。

○委員 ありがとうございます。

○会長 はい。

ほかに。どうぞ、委員。

○委員 今のナクソスのことなんですけれども、ここに出ているのはID発行数ということになっていまして、利用数ではないですよね。ID発行数といいますと、年々重ねていくという。発行する。でしたら、ID発行数、今年40だったら、去年が50、そうしたら、ID発行数というのは個人に、個人が持つことができるわけですよね。

○資料相談係長 期間が決まっていまして、一つのIDを使って、2週間聴き放題となります。1人の方が、そのIDを一つもらうと、2週間聞くことができるということですので、同じ方が何回も聴くことができるわけなんですけれども、それは2週間で終わってしまいますので、お一人の方に1回ID出したら、それで1回終わり。またIDを図書館でもらって、それで聴くことができる。いろんな方がそういった形でIDを図書館からもらって、そのサービスを受けるという形になります。

○委員 分かりました。

○会長 はい。ほかにございますでしょうか。

じゃあ、委員、どうぞ。

○委員 すみません。問題発言するつもりではなくて、興味があってお聞きしたいんですけど、購入者数が分館ごとに微妙に違ったり、幾つかのグループに数的に分かれるような印象なんですけれども、本の購入というのは中央館でまとめてやるのか、それとも各分館でやるのでしょうか。それで、ちょっと気になったのが、複本というのはどういうふうにな

っているのかなと思ひまして。個々の分館の中でも複本はあるかもしれないんですけど、あんまりそこは問題視しなくてもいいかなと思うんですけど、トータルで、例えば杉並区で令和6年度実績で8万6,759。その中に、大体、複本率ってどれぐらいなのかなというのは、ちょっと気にはなったという。そこまで出していないかもしれないんですけど。

○資料相談係長 はい。まず購入は各館で行っています。

○委員 個々ですか。

○資料相談係長 はい。各館で、どういう本を買うかというのは決めて購入しているので、杉並区と購入の契約しているところは一つですので、厳密に言うと幾つかあるわけなんですけれども、そこから購入するわけですが、どういう本を買うかというのはその図書館の裁量に任せているということです。ただ、杉並区の決まり、資料管理要綱がありますので、どういう本を買うかというのは、杉並区全体で方針は決まっていますので、この本は杉並区では入れませんか、そういったものは決まっているので、それに従って各館は全く違うような選書にはならないということになります。

○委員 うん。

○資料相談係長 あと、複本については、中央図書館が買って中央図書館で所蔵するものもありますが、ほかの図書館でも当然その図書館で所蔵すべきものがあるわけなので、それは杉並区全体として複本になります。つまり、13館ありますが、13館全部で持っている本もありますので、それは全体での複本という形になります。

非常に予約が多い本などもありますので、それは複本を各館でも2冊以上を持つ場合も、中にはあるということになります。複本率が全体の何%というのは、数字は出ません。

○委員 すみません。

○中央図書館長 すみません。補足ですけど、購入については、こういう本を買いたいというのは各館に任せるんですけど、最終的な支払いというのは一括して中央館で払うようにして、それは指定管理館も全部含めています。

あと、複本の件なんですけど、複本というのはすごく悩ましい問題で、複本を多くしてしまうと、今度は書店のほうでまた売れないという話もあるから、そういうところも少し加味していかなければいけないことから、よくよく絞っていくという形にしています。私たちは、いろんなタイトルのものを所蔵し、各館に回して貸出をするということを原則にしていますので、ほかの自治体よりは、そんなにむやみやたらに複本を持っているという状況ではないと思っています。

○委員 ありがとうございます。例えばなんですけど、高井戸図書館さんと方南図書館さんで購入されている資料の購入数が割と近いんですけども、もう図書館が13館あると、図書予算というのは、それぞれおおよそ幾らぐらいずつというのは決まって、杉並区さんは決まっているんですか。それとも、各館で好きなリクエストをして買えるんでしょうか。

○資料相談係長 予算は一律です。

○委員 一律ですか。

○資料相談係長 ええ。中央図書館の規模が大きいので予算は多いですけども、他の地域館は基本的に同じです。

○委員 同じ金額で。ありがとうございます。

○会長 はい。

あと、私がこの協議会を受けてからの話にはなるんですが、毎年8万6,000冊買っているんですが、蔵書の総数は増えていないんですね。逆に減っているくらいです。つまり、杉並区としては、新しい本を買って、同じぐらいの古い本は何かしらの形で入れ替えているということがあります。その中で、杉並区として蔵書の総数を今の数ぐらいに維持しているというのを、私の前の協議会の時代に決めたということになりますので、蔵書総数が増えていないんじゃないかというご意見を毎回頂くんですが、杉並区としては今の蔵書冊数を維持していきましょうという方針でやっていますので、そこら辺は今までの方針という形で、ちょっとご理解いただけたらと思います。

それは、私、受けるときに、こういうことを決めたからみたいなことを、増えていないんじゃないかとか減っているんじゃないかとか言われたら——大きく減った年だったんですね。つまり多過ぎるということで、その当時たまっていた、ちょっとあまり使われない本をちょっと処分した年というのがありまして、それはその方針が決まって、ちょっとずつ減らしていきましてよという経緯があったというのをお聞きしています。

○委員 ただ、人口の動態がありますよね。

○会長 はい。

○委員 その規模というのは、どっちなんですか。人口に応じた蔵書密度なのか、それとも人口の動きは関係なしに、具体的な数として、この数なんですか。

○会長 基本的には、具体的な数として、もう今の約200万冊ですか、を最大にしようということで置きました。まあ、それは……

○委員 人口が減っても増えても変わらない。

○会長　そうですね。それは、だから、図書館のキャパシティとか、そういうこともあります。だから、人口が増えたから本を増やそうと思ったら図書館増やさない限りは置き切れなくなってしまうので、そういうところもあって、取りあえず200、当時200万冊という、そういう枠を設定したということをお聞きしています。当時はちょっと私はいなかったんで、そこは議論には加わっていないんですが、そういう意味で蔵書冊数が前年度比でちょっと減っている、今年ちょっと減っているんですけど、それはそういう方針があるよということをご了解いただければと思います。

ほかにございますでしょうか。

ぜひ、委員の皆様からも、こういう、今回、数字とか、あと各館の取組ですね、後ろのほうのA3の表は、ちょっとたくさん見るのは大変なんですけど、各館ごとにこういう取組をしました、で、AとかBとかCとかという自己評価が出ていますので、ぜひそちらを見ていただいてご評価いただければと思います。

じゃあ、また——どうぞ。

○企画運営係長　すみません。じゃあ、事務局のほうから。

今後またいろいろ質問が出てくると思うんですけども、お気づきの質問につきましてメールでお送りいただいて、その回答は委員の皆さん全員にフィードバックする形でご理解をちょっと深めていただこうかなと思っておりますので、また追ってここに質問を書いてくださいみたいな書式のほうは送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○会長　はい。また、ぜひ、評価をしながら、ご質問とかありましたら、事務局のほうに投げただけだかと思えます。本当に、これってどういうことですかとか、ちょっとしたことで構いませんので、ぜひよろしくお願いします。

委員の皆様から、今、ちょっと聞いておかないと、というのがあれば、ということなんですけど、なければ、大丈夫でしょうか。

○委員　じゃあ、すみません。

○会長　どうぞ。

○委員　よろしくお願いいたします。これ、ごめんなさい、多分もう、今、なければ議題(2)に行くという意味ですよ。

○会長　そうですね。

○委員 何かこれ、ちょっと、そういう意味では途中似たようなコメントもあったかなと思うんですけども、ぜひ、図書館側の皆さんから、今回のこの実績値とか、あるいは自己評価の中で、委員側に、一つは、皆さんの中で議論、何かこの数字は想定外だったのがあって、なぜなのかとか、あるいはちょっとこういう数字に関しては課題を感じているとか、あるいは自己評価の中でも、やっぱりいろいろぜひ委員の意見も聞きたいとか、自分たちでも悩んでいるみたいな、何かそういうのがあればぜひ頂きたいというのが、ちょっと昨年もそうなんですけど、どうしても情報量が膨大で、結果的にこの次のステップに入ると皆さんそれぞれが気になったところ、ある意味、虫の目で見てもコメントするみたいな形になってしまうので、それはそれで意味があるとは思いますが、何か、できればやっぱり図書館側から、現場サイドからの課題感とか気になっていることみたいなのがあれば、コメントいただけると、すごくありがたいなと思いました。

以上です。

○会長 こちらについては——どうぞ。

○企画運営係長 はい。じゃあ、図書館側の評価といいますか、こういうことを思っているというところもこれからちょっとまとめていくところでございますので、でき次第また委員の皆様にもお示しして、決して誘導するものではないんですけども、それも参考に評価いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○会長 はい。ぜひ、図書館側のほうからこういうことを、この数字はこういう理由ですとか、ここに力を入れましたとか、ここは今年はちょっとうまくいきませんでした、数が減ったのはこういう理由です、について、皆様の側から、利用者側のほうとして、こういうところを頑張ってほしいとか、ぜひあれば、コメントいただければと思います。また、図書館側のほうからも、ぜひ、住民の皆様のご意見、ここの部分について意見を聞きたいというところがあれば、ぜひお示しいただければ、委員のほうで評価をつくるときの、非常にやりやすくなると思いますので、ぜひ投げていただければと思います。

それでは、議題の(1)、大丈夫でしょうか。また後日、図書館の側からのコメント等を踏まえて、スケジュール、資料5がスケジュールになっていますが、大体このくらいのスケジュール感で、まず皆様にはA4のこのコメント表について後ほど提出していただくということを、大体11月の中旬をめどに、まだ1か月程度ありますが、例年やっていたかどうかということをお願いしたいと思います。そちらについては、12月の13日に評価部会を開きまして、最終的に評価委員会としての評価というものをまとめて、事務局のほうに提示をし

ます。毎年ですが、私、委員長、副委員長で、最終的な冊子に載せる評価の文案というものを出しまして、そちらについて最終的な確認を頂いて、昨年度の図書館活動の評価を終了するという流れにこれからなっていくしますので、ちょっと皆様にはお手間をおかけいたしますが、10月の中頃から、ちょっとこの表とかを見たり、お近くの図書館とかにまたぜひ伺っていただいて、ぜひご評価いただけたらと思います。

それでは、議題(1)については以上とさせていただきます。

続きまして、議題(2)杉並区デジタルアーカイブ事業について、説明をよろしく願いいたします。

○資料相談係長 はい。では、改めまして、資料相談係長です。お配りした資料は、まずインターネット上に載るトップページの、今、見本になります。これが資料6です。もう一枚、資料7が事業のスケジュールということになりまして、こちらの資料を使いながら説明をしていきたいと思います。

デジタルアーカイブ事業につきましては、今年度、中央図書館の主要課題の一つということで位置づけています。歴史的資料のデジタルアーカイブ化について、現時点での進行の状況を説明いたします。

今年度、年度当初に、入札によって事業者を決定しました。TRC-ADEAC株式会社というところと契約をしました。TRC-ADEACはデジタルアーカイブ事業を多く請け負っている会社で、23区でも、豊島区、港区、台東区など、実績のある会社になります。

現在、システムの構築を進めていまして、先ほどの資料6ですね、これがトップページのサンプルになるわけなんですけれども、こういった形でインターネット上に載ります。

「杉並区デジタルアーカイブ」と検索をするとページが表示されて、ここから図書館資料をはじめ、杉並区の歴史的資料を見ることができると。このサンプル、まだ仮ですので、あと白黒になっていますので、ちょっと地味ですけれども、開始後はもう少し見やすいような、あと見栄えのいいものが載ってくるかなというふうに思います。

ちなみに、この写真なんですけれども、一番頭にあるのが、昭和16年の永福一丁目の神田川の写真になります。この写真、常にこれが載るわけではなくて、いろいろな写真がこう、順繰りに展開するような形で、興味を持ってもらうような方法で作っていくということになります。

続いて、スケジュール表、資料7で説明をしていきますが、左から右側に年度の月数が進んでいっておりますけれども、あと、上から全体で行っていること、事業者が行ってい

ること、ADEACが行っていることですね、あと、図書館、郷土博物館、広報課、文化財係、総務課等、区のほかの各課とも調整をしながら、行っているということになります。

もう既に、今年、7年の10月現在です。もう右のほうに来ておりますけれども、資料のデジタルデータについては、図書館や各課からもう業者に提供していて、システムの登載がもう順次進みつつあります。検証環境も出来上がってきておりますので、今、図書館とその他の課でチェック作業を行っているということになります。予定にありますとおり、早くて来年の1月、遅くとも年度内事業なので、3月までには公開ができるように、今進めているという状況になります。

以上が経過の説明となりますけれども、今日、この場でもう一つお話ししたいことがあります。まして、搭載を予定している杉並区の資料の中に、今日、「杉並区の図書館」、図書館要覧をお配りしています。ありますか、皆さん、これ。この中の17ページに、実は皆さんの名簿が載っております。図書館協議会の委員の方の名簿という形で載っていますが、要するにこういった行政資料をデジタルアーカイブ化していくということになって、こういった名簿などもデジタルアーカイブのほうに搭載していくということになります。これは最新であり、まだ、近々のものはデジタル化しておりません。逆に古いもの、昭和の時代から図書館の資料として作っておりますので、こういったものがデジタルアーカイブ化されて、皆さんで見ることができると、公開をしていくという形になってまいります。

こちらの名簿には、お名前が載っているということになるんですけれども、実は古い資料の中にお名前と住所まで載っている資料が、中にはあります。かなり古い資料からありますので、その頃はそういった形で載ることがありましたが、名前と住所で特定できるようなケースはマスキングをする予定になっていきますので、住所に関してはマスキングをしていくという方向で、今進めております。

この資料だけではなく、多岐にわたって、いろいろな、例えば教育委員会で言うと、「杉並区の教育」とか、そういったものの中にいろいろな資料があり、情報がありますので、そういったもので情報を公開、これは難しいだろうというようなもので判断したものはマスキングして公開していくというふうに、今進めているところです。こういったこともありますので、今日、協議会の中で皆さんお集まりですので、こういったものがデジタルアーカイブ化されるというところの報告も兼ねて、経過報告をしたということになります。

以上の説明となります。

○会長 はい。今年度中にこのデジタルアーカイブのホームページが公開されて、古い写真ですとか地図とかが見られるようになるという。この後、また、地域学習のコンテンツとかも作成予定ということで、今、作成中ということになりますので、ぜひ活用していただきたいと思いますが、今のご説明について、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。大丈夫ですかね。

今年中に公開——また公開されて、こうしたほうがいいんじゃないかとか。今回、この中には、音声データとか映像も入るんでしょうか、動画データとかも入ってくるんでしょうか。

○資料相談係長 音声は、ちょっと考えていないですね。映像を、今のところは写真のみになりますかね。

○会長 写真。そうなんですね。

○資料相談係長 今後、郷土博物館もこの中に入っているんで、郷土博物館の所蔵物がどういった形で見てもらっていくかというのはまたこれから先考えていくことになりますけれども、最初のところはこういった行政資料と、あとは写真、あと地図ですね、古地図などをデジタル化しておりますので、そちらのほうを公開という形で始めていきたいと思います。

○会長 何かご質問とかご意見、ございますでしょうか。

私、一応、地域アーカイブの専門家というか研究をしている部分もありまして、最近こういうアーカイブは、公開されておしまいではなくて、公開された写真や場所、地図を見ながら、今度住民の方々がそこに例えば思い出を、そのところの場所の思い出をそれぞれ集めたり、あとは個人の持っている写真とかをさらに集めてこのデジタルアーカイブを充実させていったり、あとは小中高の地域学習の中で出てきた成果とかをやはり同じようにコンテンツとしてまとめていくという形で、時間をかけて充実させていくということが、公開して、はいおしまい、ではないので、ぜひ、今後、図書館のイベントとしてもそうですし、住民の様々な活動の中でも活用して、学校教育とかで活用される方が非常に多いので、ぜひご検討いただければ。楽しみにしています。はい。

そうですね、写真を見て高齢者の方が、私が子どもの頃はこうだったみたいな話で情報を付け加えていくとか、あとは同じ場所の写真が何枚も今度出てきて、こういう写真もあります、と。そうすると、今度はやはり動画というのが、うちの16ミリの昔のフィルムが出てきました、8ミリのフィルムが出てきたんで図書館で預かってくれませんかみたいな、

8ミリのフィルムそのものはちょっと難しいんですけど、デジタル化してアーカイブとして公開していくとか、そういうことで広がっていく部分というのは非常にあると思いますので、ぜひ、これは、区の、区全体の、図書館の事業でもあるし、区全体の事業として、ぜひ広げていっていただきたいな、なんて思います。ぜひ、ホームページとかも、デザインとかもまた変えることもできる。

ちょっと気になったのは、私、ホームページの項目で「地域資料」という項目がありましたけど、地域資料というと、専門的には写真とか地図も全部含めて地域資料という場合もあるんで、そこではいわゆる図書とか文字、作家さんの書いた色紙とか、写真、地図以外のものを地域資料とまとめていますけど、あそこのワーディングをもうちょっと考えたほうが。地域資料という項目を立てちゃうと、誤解される方がちょっと出るかな、なんていうのは思いましたので。ちょっと、私が今、こういう項目がいいんじゃないかというのはちょっと提案できないんですが、図書館学としては、地域資料というと、ここのアーカイブ全体に載っているものを、行政資料とかも含めて地域資料、つまり杉並の地域資料なのか、杉並の地域資料の中の何か特別な資料なのかというのが分かりにくいかななんて、ちょっと感じました。ぱぱっと見ての感想なので、何ていう言い方がいいか、分かりません。もう直接、例えば「杉並の作家さん」とか、細かく項目は切っちゃっても大丈夫だと思いますね。「杉並ゆかりの作家さんの資料」とか、まあ、「ゆかりの資料その他」とか、いろいろ書き方はあると思いますが、ちょっと思いましたね。はい。ぜひ、楽しみにしています。

○委員 私も同じことを思いました。

○会長 そうですか。

○委員 ここは郷土資料のコーナーが来るのかなという。

○会長 そう。そうですね。地域資料というと、その中に何が入るのかなというのが、専門家はちょっと、あれっ、と思っちゃう。杉並区の資料のホームページなのに、その中にさらに地域資料ってあると、「おろろ。全体が地域資料じゃないの？」みたいに思っちゃう感じがあるんで、ちょっとワーディングを検討していただけたらと思います。

あと、利用の条件ですね。やはり、こういう資料は、著作権が切れているものについてはできるだけ自由にご利用いただけるようにということですし、著作権があるものについても、できる限り許諾を取って、自由に、特に子どもたちがダウンロードして使うとか、あとは、一つ、私の住んでいる場所だと、古い地図をお菓子の包装紙にして、プリントし

て地元のお菓子の包装紙として使ったりとか、そういうことも、できる限り簡単に使えるようにしたほうが、活用という面ではいいと思いますし、将来的には例えば英語とかほかの言葉での説明を加えることによって、海外の方とか、そういう方にも発信にもなるかなんていうのは、ちょっといろいろ、ページを見ながら、これからの、これはもう令和8年度以降のぜひ展開としてご検討いただけたらな、なんて思いました。はい。ぜひ、大変期待しています。

では、こちらのアーカイブの件につきましてもよろしいでしょうか。

(了承)

○会長 はい。

それでは、今後の日程について、説明のほうをよろしく願いいたします。

○管理係長 はい。ありがとうございます。管理係長です。いつもありがとうございます。今後の日程、前回1回目のときにもアナウンスはしているんですが、確認の意味で、もう一度周知させていただきます。

次第のほうに書きましたように、次回が12月13日の土曜日ですけれども、これは部会、評価部会になります。そして、第3回の今年度最後の協議会が、明けて令和8年の1月24日、開催させていただきますので、ご予定をよろしく願いいたします。

また日程が近づきましたらば、事務局のほうから開催通知をメール等でお知らせさせていただきますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○会長 はい。まず、12月13日が評価部会となっておりますので、今回、図書館の側からご提示いただいたこちらのデータとか、図書館の側から、これから来るコメント的な、評価コメントについての評価については、この12月13日にご意見を取りまとめ、皆様のものを取りまとめて、資料としてこの12月13日の評価部会にお出ししますので、その場で評価の内容については、そこでご意見を頂ければと思います。1月24日は、そこで決まって、そこである程度評価が固まって、この協議会としての評価が固まりまして、我々のほうで最終的に報告書に載せる文案についてよろしいかどうかというのを諮るのが1月24日の会議になりますので、ぜひそこら辺の、毎年これが、最後の最後まで何か評価が定まらないみたいなのところもありますので、まずその会議の性格というのをご確認くださいと思います。日時がもう決まっておりますので、大変お忙しいところを恐縮ですが、予定の確保をお願いしたいと思います。

委員の皆様から、この今後の日程について、ご質問とかはございますでしょうか。質問等に、こちらのデータとかの質問については、メールで図書館のほうにさせていただきますし、言葉の、文字が抜けているとかそういうのは、ぜひ言ってもらえればいいんですが、ぜひ皆様にやってほしいのは、先ほどから繰り返していますが、住民の代表として図書館の評価に対して例えばギャップとか、もしくはこういう考え方もあるんじゃないかということをご指摘、お示しいただけたらと思います。よろしいでしょうか。

(了承)

○会長 はい。それでは、一応、本日用意した議題としては以上となりますが、その他として、事務局のほうから何かございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

本日、非常に皆様のご協力を頂きまして、ぱぱっと終わってしまったんですが、10分程度になりますが、取りあえずメールでお送りしたデータを見たり、杉並区の図書館について、いろいろ、日々感じていることとかありましたら、ちょっとご披露いただけるといいなと思いますが、何かございますでしょうか。どうでしょう、ここ、今年1年、めちゃくちゃ暑い時期だったんですけど、図書館、あの高円寺の図書館、前回の委員会は高円寺の図書館で開かせていただきましたが、私の印象としては非常に来館者が多くて、活発に利用されているかな、なんていう印象を持ちましたが、いかがでしょうか。何かございますでしょうか。

全国の図書館的には、コロナ以降、入館者が戻らないというのは全国的な傾向とお聞きしています。つまり、コロナ以前の入館者数まで戻らない図書館が結構多いということと、やはり地方部だと少子化が進んで、子どもの本の利用というのが、どうしても人数的には減ってしまうということですね。一方で、私、ちょっとイベントを見ていましたけど、図書館のイベントで、光について考えるイベントとか、杉並区はいろいろなイベントをやっているな、なんていうのも感じました。どうでしょう。特に、ないですかね。

○委員 じゃあ。

○会長 どうぞ。

○委員 ちょっと個人的なあれで申し訳ないんですけど、私、宮前図書館をふだんから利用していますけど、あそこの建て替えの、いろんなニュースは回覧板でも時々来るんですけど、もし差し支えなければ現状をちょっとお話しいただけると助かるんですけど。

○中央図書館長 はい。それでは。

今お伝えできることは、この前まで、宮前のあの地域をどのようにしていこうかという

ことで、図書館だけでなく、学校と、ゆうゆう館とか保育園とかをどうしていこうか総合的に考えました。本当の最初は、西宮中学校と図書館を一緒にしようという話があったんですけども、いろんな地元の方々のお話もあって、1回それがゼロベースになっている。もう一回、1年かけてワークショップをして、最終的な結論としては、今の宮前図書館のところの土地に宮前図書館と、併設しているさざんか教室、これを再度造り直し、改築をすると。これは、移転改築ではなくて、その場での改築なんですね。本などを1回どこかに保管して、全部更地にしてからまた建て直すということになるんです。これ、うちの区では、あまりやっていないんですね。高円寺もそうだし、中央はリニューアルでやっているんですけども、これまでは全部移転改築なんです。永福もそうなんです。

○委員 移転改築か。

○中央図書館長 ということは、実は、工事期間がすごく長くなってしまうということが大きな懸念材料になっています。今、物価高騰で、ちょっと工事するにも、実は何か月も多くなってしまうというようなこともあるんですが、一応、今の計画では、11年度までは今のまま。12年度以降に更地にして、それで建て直すんで、壊して造るんで3年以上かかるんですよ。ということで、15、16年度ぐらいには造れたらいいなと考えているところなんです。その辺まだ分からないということで、これからは、まず宮前図書館をどの様に造ろうか、しつらえはどういうふうにしようかという、改築の方針ですね、これをまず立てていかなければいけないというところがあります。それを立てて、それからあと、予算立てをして、事業者を決めていくという形になりますので、8年度に足がかりとして利用者の方々とか、特にお子さん方、「どういう図書館がいい？」という話を、ある程度の意見聴取をやっていこうかなと、そんなように考えています。

改築している最中に本をどうするかということと、臨時の窓口をどこにつくって貸し出しをするかというのは、今後、検討していくところでございます。

以上です。

○委員 ありがとうございます。

○会長 はい。もう、本当に今、建築費がめちゃくちゃ上がって、1年遅れただけで建築費が1.2倍とか1.3倍とか、予算が立てられませんみたいな、そんな感じにもなっているんで、ちょっと不透明なところもありますね。

どうぞ。

○委員 ついでに、柿木の状況。

○会長 そうですね。

○中央図書館長 実は老朽化している施設が、宮前の次に柿木という図書館がある。柿木図書館を今度どういうふうにして、今度はあの地域でどの様にしつらえていこうかというのを、今、ワークショップをやっている最中で、今年と来年にかけてワークショップをやって、構想を立てていく。その後で、現地改築になるのか、改築するとしても何かと合築するのか、どうするのかとか、どこかに移動するのかということも含めて、これから決定していきます。

そうすると、つらつら考えると、もしかしたら宮前と柿木が同じ時期に改築することになってしまう可能性もあるのではというところがあります。だからといって、一気に2館、30億、40億かけて建てるということはなかなか難しい部分があるので、その辺のところが悩ましいところで、まだ方向性、いつ何をどうするかというのは、宮前と違って、柿木はまだ決まっていないという状況です。来年以降になりますね。

○会長 はい。でも、本当に、昭和40年とか、私よりも年上なんだ、とか思いながら。でも、これから、やはり建て直していかないと、ちょっともう、図書館、建物としては60年とか50年を越してしまうと、地震の対策という面でも大変ですし、あと、多分、設備が老朽化して、エアコンが壊れたとか水道管が破裂したとか出てきますので、ぜひ考えて。

これ、やはり、今、図書館をつくるときに、住民の方々がその場所で何をしたいのかというところが非常に重要になっていますから、ぜひワークショップとかにも参加していただけたらな、なんて思います。あと、今の住民の方もそうですし、将来的な住民の方とか、そういう形で考えていただけるといいかななんていうのを、ちょっと今思いました。

○中央図書館長 補足の補足です。

館長として協議会の皆さん方からも、10年、20年先、図書館がこういうふうにあったらいいなというのをどこかの形でお伺いしたいなと思っているところです。

先ほど申し上げたこの2館については、今のこのご時世で、まずエレベーターがない。両方ともエレベーターがない。それからあと、多目的トイレがない。あと、宮前はすごく閲覧席が多いんですけど、今度は建築基準の関係で、あれを減らさなきゃいけない。逆に、柿木はそれほど閲覧席はない中で、今望まれている知の拠点として、あと交流をどうしていくか。区の課題として、いろんな行政課題が出てきているところにどういうふうにタイアップしていくのか。そういう施設として成り立つのかどうかということを含めて考えていかなきゃいけない。それから、一番大きいのは、子どもの居場所としてどうするのかとい

うところ。でも要望では、今、子どもの居場所、子どもの居場所と言っているけど、じゃあ、お年寄りの居場所はどうするんだという要望も出てきたりしていますが、高齢者の方々がすぐ、例えば暑いときだけじゃなくて、どんなときでも通ってきて、それで過ごすという施設にもしていきたいと思っています。また忌憚ないご意見を頂ければと思っています。ありがとうございます。

○会長 どうぞ、委員。

○委員 これ、実はちょっと関係ない話になっちゃうかもしれませんが、8月に、ちょっと医学図書館の学会があつて台湾に行ったんですけど、台北市の北投図書館ってご存じですか。北に投げると書くんですけど、台北市立の図書館ですから公共図書館で、台湾でも同じように図書館見学する人たちって結構いるみたいなんですけど、そこは割とメッカになっているようなところらしくて、徹底的にエコを導入しているというところで、雨水なんか屋根から来たら、ろ過して、それをトイレに使うとか、あとエアコンなんかも、使っているんですけどもなるべく換気をよくするとか、ああいうような特徴を出すと、やっぱり多くの人に来てくれて、多くの人が来ると、やっぱりいろいろと地域も潤ってくるというのもあるかなと思うんですけど、もしよかったら、杉並区の皆さんも見学に行かれたらいいんじゃないかなと、ちょっと思ったりしました。

○中央図書館長

たしか、図書館名はちょっと私も失念しているんですけども、この台湾に区長をはじめとして、職員が行っているんですけども、そこで、区長が台湾とか韓国のいろんな情報を出してきて、「どうなの？」ということを私に聞かれることがあります。

これからはエコというのは、もうこれ、必然ですよ。ZEB化をすることも含めてとか、まあ、太陽光発電がいいかどうかもあるんですけども、全てそういうところを踏まえて施設を造っていかなければいけない。というふうには思っているんですが、ただそれに関して、それにまた費用がかかるという部分があったりして、その辺のところは営繕課と考えなきゃいけないかなと思っています。

あと、一定の敷地がないと、そういうエコの施設がなかなか造りにくいんじゃないかなというところも思ったりするので、その辺のところは課題認識はしています。もう今はそういう流れになっていると思いますので、多分国外にはなかなか行く機会がないと思いますが、国内でもそういうところがあれば、先進のところを調査しながら進めていく必要があると思っています。

○委員 エコにこだわる必要はないと思うんですけど、やっぱり、みんな同じものを造るよりは、特徴がある図書館を杉並区はこんなに持っているというほうが、やっぱり対外的にはアピールになるし、フラッグシップみたいになっていただければ、ほかのところがやっぱり杉並区をまねようというふうになってくれると思うんで、そういう発想もいいんじゃないかなとは、ちょっと思ったりします。

○会長 どうぞ、委員。

○委員 ちょっと、外の部分はなかなか厳しいんだろうなとは思いつつ、今回配られました図書館要覧をさらっと拝見しました。まだきちんと読んでいないので申し訳ないんですが、最初の各館の特徴のところがすごくすてきだなと思ひまして。私、今年で3年目なんですけど、当初はどの図書館も「閑静な住宅街にある」とだけ書いてあって、まあそれはそうでしょうねと。でも、どんな住宅街なんだろうとか、ただの場所だけの情報にしかないと思っていたものが、今回は各館とても丁寧に、力を入れていることですか、その環境的なことだのが書いてあって、かなり魅力度の増す、すばらしいものだなと思ひましたという感想です。

○会長 はい。この、ここの、ここの部分ですね。特徴というところがそれぞれあって、やっぱり羨ましいなという、すばらしいなと思ひます。

どうぞ。

○中央図書館長 もう一つ。また補足で、申し訳ございません。

まさにそうで、閑静な住宅街の一つだけで杉並区の特徴になってしまっている部分があるんですけども、実は杉並区も地域地域で全く特色が違っていて、下町っぽいところがあったり、山の手のところがあったり、いろんな、こう、住んでいる方々も全く違うという中で、本当に各館それぞれ、地域に入り込んで、それでそういうところから人を見つけて講座をしてみたり、そのまちの方々と活動をするということがあって、やはりこの地域ならではの地域館の特色があると思ひています。本当はこの地域で、私たちはこうやっているんだよということが見えてくると、すごく、さらに魅力的な、各館の特色が出てくるのかなと思ひていますので、それを各地域図書館の運営者の方々には期待していきたいなと思ひています。よろしくお願ひします。ありがとうございます。

○会長 はい。ぜひ、見学したい図書館とか、国内とか、関東地域にすてきな図書館がたくさんあると思ひますので、ぜひ見ていただければと思ひますし、あと、やはり活動ですね、その図書館で地域の方々が何をしているのかというのをぜひ見ていただいて、やは

りそこは結構変わってきているんですね。本を読む場所、本を借りる場所というだけの場所では、今の公共図書館、大分そこは変わっていて、やはり地域の方々が集まる場所とか様々な活動をする場所、もしくはちょっとリラックスをする場所というような役割が結構増えています。

住民の方々の中には、もしかしたら純粋な図書館をつくってほしいというご希望のある方もいらっしゃるかもしれません。高円寺みたいいろいろなくつつけるのはやめてほしいというご意見もあるかもしれません。その辺も、ぜひワークショップの中で、そういうご意見もやはり重要だとは思いますが。やっぱり、例えばこの中央図書館を使っていて、ちょっとうるさいと、静かに読書がする場所が欲しいんだというご意見も以前あったということを知っています。そういう意見も実現できるような建物の造り方とか、今20億とか30億とか言って、おおっ、お金があるな、とか思いながら、通常、地域館だと10億以下だとか床面積が1,000平米以下だとか、結構厳しいことを言われることが多いんですが、いやあ、さすが杉並区だな、とか思いましたが。はい。そんな、ぜひ、選ばれる、住みたいなと思ってもらえるような区にしていく一つになればですね。結構図書館マップが引っ越しのときに、決める、ここに住もうと決めるときの決め手になる場合もあるんですね。不動産屋さんが、図書館がありますよとか、住みやすいまちの紹介の中で使うというようなときに使ってもらえるといいかなと、ちょっと個人的には思いましたね。

新しい図書館、わくわくしますね。私、図書館を潰すとか、そういう委員会に選ばれることが多くて、悲しい話ばかり、ここ最近聞いていたんで。人口が減ったんで八つあるやつを三つにしますとか、先生、その三つにする理由を考えてくださいと。いや、それ、恨まれ役やん、みたいな、そんな委員会もありましたね。

じゃあ、特になければ、ちょっと、ぜひ、新しい、古い図書館の建て替えという部分も、ぜひこれからの課題になってくると思いますので、ぜひご意見を頂けたらと思います。

どうぞ。

○委員 すみません。もっと最初にしゃべればよかったんですけど。

高円寺図書館なんですけれども、私は、旧杉八小学校が閉校になる、その後どうするかというところで、その地域をどうしていこうかという考えるメンバーの一人だったんですけども、そのときにやはり地域の核がなくなるというところで、ここを新たな核としてほしい、人が集まる場所にしてほしいという中で、やっぱり子どもたちと地域の居場所というところで、吉祥寺、あ、武蔵境にある武蔵野プレイスとか、そこら辺を見学に行っ

たりとか、そういうところを行政の方といろいろ相談した中で、今の高円寺図書館が出来上がっているのも、やはりほかの柿木とか宮前さんもいろいろとご意見を出し合って、すてきな居場所、図書館をつくっていただけたらいいなと思っております。

以上です。

○会長 はい。ありがとうございました。私も武蔵野プレイスは何回か行きましたが、活動がすてきですね。建物も面白いですけど。

ぜひ、これから、ちょっと時間もかかりますし、区としてはやはりお金というのにもたくさんかかるんで、もしかしたら紆余曲折、どこかの市長さんみたいに、建てる、建てないでもめたりとか、いろいろあっちゃうかもしれないんですけど、でも、ぜひ、区の住民の方々がその図書館が必要だともっと思っていたいただければ必ず建つものですので、ぜひ建てていただけたらと思います。

それでは、意見交換はこのぐらいで終了とさせていただきます。

その他、何か連絡事項等ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

(なし)

○会長 はい。それでは、こちらで令和7年度第2回の図書館協議会は終了とさせていただきます。スムーズな議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。これから委員の皆様には、評価という形で、杉並区の図書館に対してのご意見などを頂くことになると思いますが、ぜひご協力のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、本日の協議会、以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。お疲れさまでした。